

4. 5年目の施策の振り返り

4. 5年目の施策の振り返り

【水循環・物質循環の再生の施策の振り返り結果】

青字:前回小委員会資料で記載、赤字:今回記載

A. 流域全体での評価基準	評価結果(案)
●流量と流砂量や栄養塩負荷量との関係、流域での収支の解明	○釧路川流域を対象とした『水循環(水の移動)』を解明するための、計算手法を構築できた。
●河川水位や湿原地下水位	○この『水循環(水の移動)』の計算により、地下水・河川水のおおまかな流れや湧き水の状況を再現できるようになり、年間の水の出入り(水収支)を解明できた。
●流砂量や栄養塩負荷量の減少	○久著呂川を対象に窒素、リン(栄養塩負荷量)などについて調査(平成14年～平成16年)を実施した。
A. 流域全体での振り返り結果	○『水循環(水の移動)』を解明するための、計算手法を構築できたことによって、水の移動現象を解明できた。 ○今後は水と一緒に流入する窒素、リン(栄養塩負荷量)などについて検討を進めて、水や物質の移動現象の把握に努める。
B. 手法の実施結果の評価基準	評価結果(案)
●河川水位や湿原地下水位	釧路湿原を対象とした計算手法により、 ○釧路湿原全体の地下水位の傾向を概ね再現することができた。
●下流部における流砂量や栄養塩負荷量の減少	○幌呂地区を対象とした計算では、地下水位の動きを詳細に再現することができた。 ○「下流部における流砂量や栄養塩負荷量の減少」は、これまでの検討では達成できなかった。
B. 手法の実施結果の振り返り結果	○釧路湿原の地下水位の動きの再現などの現象を解明できた。 ○「下流部における流砂量や栄養塩負荷量の減少」は、他の小委員会とも連携して今後の課題として扱うこととする。
総合評価(案)	○これまでの地下水位観測や湧き水の調査結果などにより、釧路川流域を対象とした水の出入り(水収支)を解明することができた。 ○釧路湿原の地質調査の結果、中部泥層(粘性土)が広く分布して、この地層を挟んで上と下で地下水位が異なることを解明した。 ○『水循環(水の移動)』の計算では、地層毎に異なる地下水位を別々に計算することができた。 ○これまでの検討で得られた知見については、湿原再生小委員会の施策の検討に活用できた。